



決算審査特別委員会の様子

## 決算審査特別委員会

# 平成26年度各会計決算を審査

平成26年度の一般会計、特別会計及び企業会計決算の認定に係る議案19件は、市議会9月定例会に上程されました。

議案審査にあたっては、決算審査特別委員会が設置され、事業の効果・成果に関わる事項などについて、5日間にわたり詳細に審査されました。

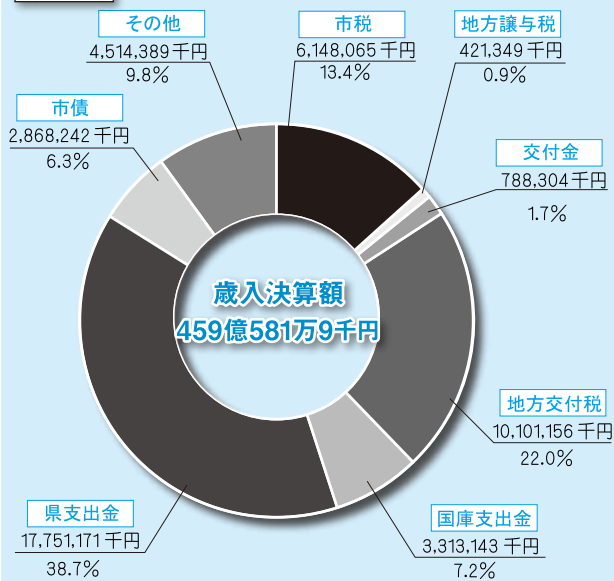
審査の結果、全議案「認定すべきもの」とし、本会議に報告されました。

9月3日に議長及び議会の選出の監査委員を除く23人の委員をもって構成する決算審査特別委員会が設置されました。特別委員会では、佐藤源市委員長、平敏子副委員長のもと、9月11日、14日及び15日の3日間にわたり、施策の重点事項に掲げた施策の目標ごとに、主な事務事業について、事業の成果・効果を主眼に総括審査を行いました。また、15日から17日の3日間にわたり、4つの分科会を設置し、各分野ごとに重点的に検証を行う事業を選定して詳細審査を行いました。分科会での質疑終了後には、委員による討議や事業の成果・効果等の事業評価も行いました。

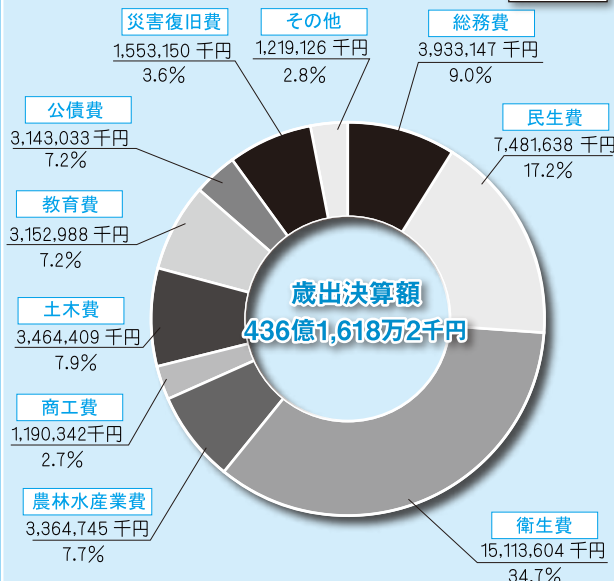
地方の財政環境が一段と厳しさを増す経済情勢を踏まえ、委員会審査及び分科会審査では26年度の行財政運営の実績や各施策の効果・成果などについて活発な議論を交わし、全会計の決算を認定すべきものとししました。

# 平成26年度 一般会計決算

## 歳入



## 歳出



## 審査結果の概要

### ◎総括審査

主な事務事業について、事業の成果・効果を主眼に各部ごとに審査。

### ◎総務部

**問** 広聴事業において、市民から提言のあった件数と提言を受けて実施した内容はどのようなものがあるのか。また、提言のあった内容を広報等で市民にPRしたのか。

**答** 菊松くんボックスで34件、元気のたねで87件、広聴カードで処理したものが4件あり、合計125件の提言をいただいた。道路の補修や菊松くんのデザインなど実現した内容もある。  
 実現した内容や提言いただいた内容は、広報にほんまつやウェブサイトで公表している。

### ◎市民部

**問** 住民センターに、太陽光発電設備の設置がされたとのことだが、設置の効果は。また、防災拠点としての利用を想定しての設置なのか。

**答** 26年度に6カ所設置した

が、年度末であったため、設置効果は現時点では把握できていない。なお、25年度に設置した岳下住民センターにおいては17パーセントの電気料の節減がはかられている。また、当該設備は、防災用として県費100パーセント補助で導入したものである。

### ◎産業部

**問** 観光ボランティアガイド協会運営費補助費が計上されており、24名の観光ボランティアガイドの皆さんにご協力をいただいたとのことだが、十分な人数なのか。また、ボランティアガイドの皆さんから意見や要望はなかったのか。

**答** 現在の人数で対応しているが、もう少し増員したいと考えている。ボランティアガイドの皆さんに研修をいただきながら、少しずつ人数が増えてきている状況である。意見や要望は伺っていない。

### ◎建設部

**問** 地域公園管理経費について、年度当初予算が2,300万円なのに対し決算額が6,200万円となっている。増額の要因と今後の対応は。

**答** 公園17カ所の遊具の更新を行ったが、補助事業の採択が年度当初のため、当初予算には計上されていなかった。全公園の遊具の更新を行ったため、今後の事業予定はない。

### ◎教育委員会

**問** 放射線等の副読本を作成したが、どのような授業を予定しているのか。

**答** 小中学校9年間を見通した資料として作成した。各学年でそれぞれ学ぶ内容が違っており、放射線について正しい知識を身につけるため使用したい。

### ◎上下水道部

**問** 岩代及び東和簡易水道事業特別会計において、原子力損害賠償金が計上されているが、その内容は。

**答** モニタリング等に係る23年度分の職員超過勤務人件費を東京電力に請求したものである。

## ◎分科会審査（詳細審査）

4つの分科会を設置し、重点的に検証を行う事業を選定し審査。委員による討議や、事業の成果・効果等の事業評価も実施。

### ○総務分科会

8事業を重点検証事業に選定し審査。

『市民との協働による地域づくり支援事業』

「交付団体数と、交付事業の具体的内容は。」との質疑に対し、「団体数は市内で104件であり、内容は、浪江と岳下絆祭り、子どもの集いなど、



地域づくり支援事業による夏祭り

地域において恒例事業になりつつあるものもある。また、安達太良山への親子登山、地藏桜環境整備など、地域の活性化、地域の絆の再構築という面では大変有意義に使われている。」との答弁があった。

また、討議において、「各地域の振興のため有意義に活用されており、市民からの要望も多いため、事業を拡充継続すべきである」と考える。しかしながら、平成28年度においては、制度開始後5年を経過することから、支援事業の選定基準や交付方法等について、再度検証し実施していくべきと考える。」との意見があった。

### 『広報広聴事業』

討議において、「近年、各地で自然災害が多発していることから、緊急情報メール配信サービスの充実を図り、市民への周知徹底を図るべきである。」との意見があった。

## ○市民産業分科会

25事業を重点検証事業に選定し審査。

### 『消防施設整備対策』

「防火水槽の除染は考えているのか。」との質疑に対し、「無蓋の防火水槽について、平成28年度に除染を行いたいと考えている。防火水槽の除染については、コンクリート造であること、周辺の放射線量が一定程度高いこと、底に泥が10センチメートル以上溜まっていること、という国が求めている基準があり、今後設置状況について調査を進めていきたいと考えている。」との答弁があった。

## ○建設水道分科会

19事業を重点検証事業に選定し審査。

### 『東和簡易水道事業』

「一般会計からの繰り入れが歳入総額の51パーセントに

また、討議において、「全ての防火水槽の除染に取り組むことができるよう、除染対象基準の変更について国に対して強く要望すべきである。」との意見があった。

### 『中山間地域等直接支払制度事業』

「事業の対象面積の内訳及び構成員の各地域別の団体数と農家数はどのようになっているか。」との質疑に対し、「面積については水田が1,474ヘクタール、畑が150ヘクタール、草地が34ヘクタールである。構成員については、二本松地域が29団体、508件、安達地域が19団体、353件、岩代地域が41団体、910件、東和地

のほる。繰り入れが大きすぎるのではないか。かかった経費に対して不足分は一般会計から繰り入れをすればよいという考えなのか。」との質疑に対し、「簡易水道事業そのものが全国的にも水道料金で収益を確保するのが難しい事業でもあり、現在までも相当程度

域が45団体、884件、合計134団体、2,655件である。」との答弁があった。

また、討議において、「中山間地域にとって重要な事業であり、継続すべきである。」との意見があった。



中山間地域等直接支払制度事業による共同作業

の繰り入れを行ってきた。今後も繰り入れをなるべく抑えていくという予算のあり方を常に念頭に置きながら事業を進めていきたい。」との答弁があった。

また、討議において、「戸沢地区については現在も進行中であり、整備促進をするべ

きである。」との意見があった。

『安達駅周辺の整備促進』

「平成26年度に計画した事業が低い進捗率となった理由は。」との質疑に対し、「平成26年度に東西自由通路の整備をJR東日本に委託したが、建築確認申請のみの進捗しかなく、そのあとに続く駅東口・西口広場の整備ができなかった。」との答弁があった。

また、討議において、「駅西口も事業が前進するよう、より一層の整備促進をするべきである。」との意見があった。



整備が進む安達駅東地区

○文教福祉分科会

20事業を重点検証事業に選定し審査。

『温泉保養健康増進事業』

「温泉券の利用率が57・1パーセントであるとのことだが、この事業の効果をどのように捉えているか。」との質疑に対し、「当該事業については、温泉利用による健康増進、温泉へ出かけるという外出機会の提供による閉じこもりの防止、高齢者間での交流機会の創出等の効果が得られている。」との答弁があった。

また、討議において、「温泉券の利用率が50パーセント台である現状においては、対象年齢を70歳以上とした根拠を明確にするべきである。」との意見があった。

『文化財保護・保存事業』

「小浜長折三匹獅子舞の記録映像を作成したとのことだが、どのような効果を狙ったものか。」との質疑に対し、「地域の伝統芸能については、少子高齢化・過疎化の進行によ

り継承が難しくなってきたおり、貴重な文化財の、後世への保存・継承を目的としたものである。」との答弁があった。

また、討議において、「伝統文化の継承は重要な問題であり、記録映像等の取り扱いについては、今後、普及・活用する方法について十分に検討し、確立させておくべきである。」との意見があった。



小浜長折の三匹獅子舞

特別会計決算

(単位：千円)

| 区 分          | 国民健康保険    |         | 後期高齢者<br>医 療 | 介護保険      |            | 土地取得   | 公設地方<br>卸売市場 | 佐勢ノ宮住宅<br>団地造成事業 |
|--------------|-----------|---------|--------------|-----------|------------|--------|--------------|------------------|
|              | 事業勘定      | 直診勘定    |              | 保険事業勘定    | 介護サービス事業勘定 |        |              |                  |
| 歳 入          | 6,544,670 | 123,440 | 548,228      | 5,048,603 | 24,741     | 20,110 | 8,153        | 10,061           |
| 歳 出          | 6,296,313 | 121,526 | 546,839      | 4,967,314 | 17,091     | 20,110 | 7,200        | 10,061           |
| 翌年度へ繰り越すべき財源 | 0         | 0       | 0            | 0         | 0          | 0      | 0            | 0                |
| 実質収支額        | 248,357   | 1,914   | 1,389        | 81,289    | 7,650      | 0      | 953          | 0                |

| 区 分          | 岩代簡易<br>水道事業 | 東和簡易<br>水道事業 | 安 達<br>下水道事業 | 岩 代<br>下水道事業 | 茂 原<br>財産区 | 田 沢<br>財産区 | 石 平<br>財産区 | 針 道<br>財産区 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|
| 歳 入          | 134,133      | 267,505      | 223,078      | 84,204       | 1,437      | 273        | 2,239      | 113        |
| 歳 出          | 133,970      | 267,436      | 223,078      | 76,777       | 1,124      | 204        | 2,076      | 87         |
| 翌年度へ繰り越すべき財源 | 0            | 0            | 0            | 7,414        | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 実質収支額        | 163          | 69           | 0            | 13           | 313        | 69         | 163        | 26         |

企業会計決算

(単位：千円)

| 区 分 |    | 工業団地造成事業 | 宅地造成事業 | 水道事業      | 下水道事業   |
|-----|----|----------|--------|-----------|---------|
| 収益的 | 収入 | 0        | 0      | 1,054,785 | 661,326 |
|     | 支出 | -        | -      | 928,486   | 657,743 |
| 資本的 | 収入 | -        | -      | 358,445   | 119,054 |
|     | 支出 | -        | -      | 671,726   | 350,434 |